



新ホームページ
スマホ対応

INDONESIA MISSION



インドネシアミッションPV

発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 Tel: 0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP: <https://indnesia.com>



ボルネオ幼稚園の工事が進んでいます

西カリマンタン宣教のためにお祈りと支えを心より感謝します。

今年の5月から7月初めにかけて私が仕えていますKBI(関西聖書学院)に沢山の宣教師が来てくださいました。現地の働きの報告も恵まれますが、何よりも前が見えない時に、どのように神様が想定外の方法で道を開いて下さったか先生方のお証しを聞いて心燃やされました。ビザのこと、経済のこと、働きのこと…。私たちはいつのまにか安全で安心な方を選びがちですが、宣教に出ていくというのは信仰が試され、でも不思議をおこなわれる大きな神様を体験する道なのだと思います。人生は一度だけ、神様とチャレンジバトル、アドベンチャラスな人生がいいなと思います。

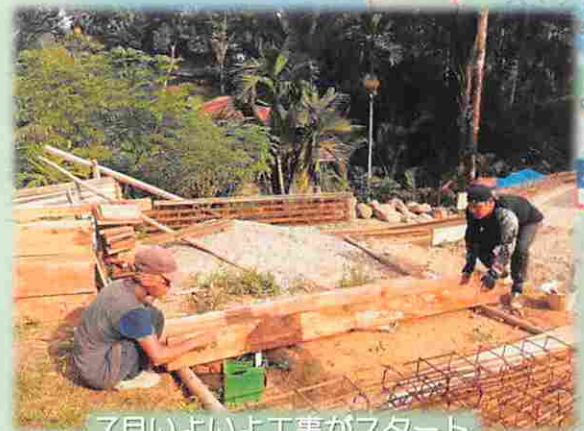
インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



空はインドネシアと繋がっています。
関西聖書学院からの眺め

ボルネオ幼稚園進捗状況

4月に単独で渡航し、幼稚園建設の施工管理者でありグロリア寮舎監のヘルマヌスと、現場で施工方法を確認して準備をしてきました。道具や材料などの手配も終わって、いよいよ5月から大工が現地入りして工事開始！と思っていたのですが、肝心の大工が決まらず着工が無期限で延期することに。大工が決まらない原因がハッキリとは分かりませんが、いくつか思い当たることがあります。まずアメリカとイランによる衝突による影響で、資材高騰と大工の工賃が高騰したことです。予定より費用が大幅に膨らみそうで、経済的な面でも悩みが尽きません。ただ、これ以上に大きな要因だと思うことがあります。それは大工が工事を敬遠する理由が、カトリックの村であるグンジュマ村にプロテスタントの幼稚園を建てることに対する警戒と嫌悪感から来ていることではないかと感じる節があります。ボルネオ幼稚園を建てるグンジュマ村にも大工はいます。しかし農業が忙しいという理由で全く引き受けてくれません。



7月いよいよ工事がスタート

ブンカヤン

約140km

カリマンタン島西部地図

約100km

約250km

ATI卒業式と新校長

高橋めぐみ

今年2月末にATI神学校は新校長に替わりました。ファニー・カセケ先生です。ATI神学校の卒業生で以前日本から奨学金サポートをしていました。私はファニー夫妻とATI神学校でスタッフとして一緒に仕えたことがあります。実直で学生を愛する素晴らしい人物だと思います。2月まではスマトラ島のタンジュンエニム神学校で校長をしていました。

また、新しい校長になってから初めての卒業式が6月5日に持たれました。卒業式のテーマは「勇士の手にある権威: 神の命令に仕える。詩篇127: 3-5」でした。



ファニー・カセケ先生と奥さんのニタさん

卒業生は全部で19名で、神学コースが8名、キリスト教教育コースが11名でした。これから卒業生がそれぞれの場所で用いられることを期待します。なお、卒業生の一人、ジョハン兄はエンティコン・グロリア寮で2年間奉仕してくれます。



ATI卒業式の様子



インドネシアミッション委員 東 聖士

周辺の村でも聞いたのですが、法外な値段を提示してきたり、忙しいとの一点張りで引き受けてくれませんでした。そのような状況ではあります、ついに大工が決まって7月下旬に工事がスタートしました！8月下旬に訪れるミッショントップメンバーは、工事が始まった現場を見るのが出来ると思います。



無いものは工夫して作ります Belong



土手を削って、土を動かすのも手作業

インドネシアは世界最大のムスリム人口を誇る国です。そしてカトリックと言っても、この地域では土着の信仰と混ざって、本来の信仰とは程遠いものです。そのカトリックを信仰するグンジュマ村に、政府公認のプロテスタントの幼稚園を建てることなど、主が道を開いて下さらないとここまで辿り着けなかったでしょう。そして、この幼稚園建設が、地域に非常に大きなインパクトを与え、宣教の拠点となるのだと改めて感じます。ただ、重要な拠点のゆえに、完成させまいと働く背後の力による抵抗も激しくなるのだと実感しています。エズラ書やネヘミヤ記を読むと、神殿再建と城壁再建を進める中で、完成に至るまでに様々な妨害を受けたことが記されています。同じように、この幼稚園建設が完成するまでに、新たな問題や様々な妨害が入って来ると思います。完成させるまでの力と知恵が上より与えられ、無事に完成させることが出来るようにどうぞお祈り下さい。

イドゥル＝アドハーの奉仕に関する証し

タヨンナ

イドゥル＝アドハーはイスラム教徒の祝日です。イドゥル＝アドハーは、預言者イブラヒム（アブラハム）が息子イスマイル（イシュマエル）を犠牲として捧げようとした時に、アッラーが代わりに雄羊を差し出された出来事を記念するものです。イドゥル＝アドハーは「イドゥル＝ナハル」とも呼ばれ、これは「屠る祝日」、すなわち犠牲の動物を屠る日を意味します。したがって、イドゥル＝アドハーは犠牲の動物を再び屠ることを意味し、「犠牲祭（クルバン祭）」としても知られています。そのため

今年のイドゥル＝アドハーの、祭りには、友情の証として、また他の信仰を持つ人々への寛容の姿勢を示すため、モスクのイスラム教徒の方々に山羊を贈る貴重な機会が与えられました。



生贄としての山羊

さらに、いくつかのイスラム教徒の家庭を訪問し、「イエス様こそが、完全な犠牲で（コルバン）であり、人類の罪を贖うために十字架上で死なれた」ことを伝えることもできました。

リアさんのご家族を訪問しました。リアさんはモスクの役員でもあり、生け贄（犠牲）の動物の世話も担当しています。この機会を通して福音を伝え、彼らが、イエス様を完全な犠牲（コルバン）として信じるように、共に祈ることができました。



イドル＝アドハーを通して訪問先で共に祈りました



今、グロリア寮では日本で働くことを夢見る子どもたちが増えている。西カリマンタン、特にエンティコン周辺の人々は、昔からマレーシアへ出稼ぎに行くことが普通で、海外で働くことへのハードルは低い。寮に住んでいると日本人がよく訪れ、身近な存在となる。ミッショントリップや宣教地訪問は、行く日本人だけでなく、受け入れるインドネシア人にも人生を左右する影響を与えているのだ。

現在、寮の卒業生の一人が、ジャカルタの日本語学校で学び、日本で働く準備を進めている。もし今後、日本の教会がこうした若者たちを霊的・实际的に支えることが出来れば、彼らは経済的な自立だけでなく信仰においても成長するだろう。そして将来、日本で生活する中で養われた信仰を携えて故郷へ帰るなら、その証しは家族や故郷の村に大きな影響を与えるに違いない。



日本が身近になっています

神様は人の移動や働きのお機会をも用いて、福音を広げておられる。そして今、世界宣教は大きく変わってきている。行くだけでなく、迎えることによって活動の場が広がられているのだ。



将来に夢を持って



ジャカルタの日本語学校へ行くエルサ

愛知インドネシア福音教会 日本語礼拝

塚本 いのり

袴田 愛梨



礼拝風景



愛知インドネシア教会での証

袴田愛梨

今回、インドネシア語と日本語で賛美する機会が与えられ、共に賛美をしている中で、言語を超えて同じ神様を賛美しているということに感動し、とても嬉しかったです。

日本語礼拝に来られている方の中には、インドネシアの方と結婚された日本人の方も来られており、この教会がインドネシアの方への伝道だけではなく日本人の配偶者や友人への伝道に繋がっていることを感じました。また、インドネシアではイエス様のことを知らなかった方が日本に来てから教会に来られイエス様のことを知る機会が与えられている人もおり、神様は場所やタイミングなど様々なところでユニークな導き方をされているということを感じました。

日本で歩むインドネシアの方々

塚本いのり

日本語礼拝に出席し、めぐみ先生がメッセージを取り次いで下さり、私たちは証と賛美の奉仕をさせていただきました。日本語礼拝には、様々なバックグラウンドの方が20人ほど集っていました。礼拝後、2世の方との交わりの中で、親はインドネシア人だけど、自分は日本語の方が分かるし聖書の話は日本語でないと理解しにくいと話していました。そのため、今回日本人の日本語での証を聞いたことを喜んでくださいました。言葉の壁によって、教会から離れる人も少なくないようです。日本での生活の中で、彼らの信仰が守られるように続けて祈っていきたいと思われましたし、また訪ねたいと思われました。

－ 祈りのリクエスト －

ATI神学校

◎7月から新学期が始まりました。新校長ファニー師の下、神学生が良い学びと訓練を受けられるように。

中高生寮（3つの学生寮共通）

◎子どもたち(特に新入寮生)が明確にキリストに出会って変えられていくように。

エンティコン・グロリア寮Ⅰ

◎舎監ヘルマヌス家族とATI新卒業生のジョハンに知恵が与えられるように。
◎毎日曜日の礼拝が祝福され子どもたちの良い訓練となるように。

スルートゥンバワン・グロリア寮Ⅱ

◎赴任していたヨピは一身上の都合で舎監を辞めました。代わりにエンティコンからソフィア姉が、また新しくムンキン姉(胡椒奨学生)が赴任しました。スルートゥンバワンで初めての女性舎監です。バイクでの移動に守りがあるように。

ブンカヤン・ベラカ寮

◎ベラカ寮の土地と建物が地域の必要(宣教)のために用いられるように。今後の計画について現地団体と良い話し合いができるように。

プニティ・アナスタシス教会

◎フレンキー牧師夫妻が小中学校で宗教(キリスト教)を教えている華人の生徒たちに福音が伝わるように。

沿岸部族(●族)の働き

◎タヨナ氏、ハリジョ氏の働きの祝福のために。
◎救われた人たちの信仰成長のために。
◎彼らの家族の経済的必要がいつも与えられるように。

グンジュマ村・ボルネオ幼稚園

◎バダットバル村から大工さんが来て工事を行っています。大工さんの健康と安全のために。
◎山を越えて調達する資材購入がスムーズに進むように。建築資金は予算額が満たされました。感謝。
◎幼稚園の政府認可が順調におりるように。

「インドネシアミッションブースを出しました」

高橋めぐみ

今年もゴールデンウィークの4月29日にJEC聖会でインドネシアミッションブースを出展しました。奨学金献金のためのカリマンタン白胡椒、ボルネオ幼稚園建築のためのコーヒー販売、●族伝道で、犠牲祭に献品する山羊代のための手作りお菓子の販売など、今年も皆で協力して賑やかに楽しくブース出展することができました。

このブース出展は日本側でも皆さんに宣教を覚えてもらう意義がありますが、インドネシア現地の人たちにも大いに意味があります。それは、単に経済的にサポートをしているだけではなく、「私たちも祈りながら一生懸命、心を込めて一緒に宣教をサポートしているのですよ」というメッセージを現地の人たちに届ける



ボルネオ幼稚園、犠牲祭の山羊のために

ことができることです。この聖会ブースの写真を舎監のヘルマヌスに送ったところ「わー、素晴らしい！私たちインドネシア人の中にもそのように宣教地の人々を覚え、労する者が出てくるようにどうぞお祈りください。皆さんにどうぞよろしくお伝えください」というメッセージが返って来ました。

嬉しいことに、以前この胡椒ミッションでサポートしていたヨセパ・ムンキン姉は、ATIを卒業後3年のお礼奉公を経て、この7月からスルートゥンバワンの舎監として戻って来ました。グロリア寮2出身の生え抜きです。彼女が寮で新しく生まれ変わったように、彼女に続く子どもたちが起こされますように。



奨学生サポート・胡椒プロジェクトのブース